

ERIC 通信 第13号

2002年4月15日発行

主催研修「M.E.E.T. ザ ワールド」をふりかえって

プログラム提供部 足立恵理

はじめまして。4月からプログラム提供部を担当します、足立です。主催研修、委託研修の受けつけ・相談でみなさんと直接電話でお話する機会もあるかと思えます。よろしくお願いいたします。

1月12日～14日の主催研修「M.E.E.T. ザ ワールドー地域の課題共有と解決のために」には、私もスタッフとしてではなく、参加者の一人として参加しました。そこで研修報告をかねて、私の感想を書いてみました。これから、さまざまな研修に参加しようと考えている方に、少しでも実際の「参加型のアクティビティ」雰囲気伝えることができれば幸いです。

■多様な背景を持つ参加者

まず気になるのは「どんな人が参加しているのだろう」ということです。

参加者の顔ぶれは実に多様でした。実際に国際協力の現場に関っている人もいれば地域の中で参加型の実践をめざす人、学校での教育実践に活かそうとしている人もいます。私のように、興味関心はあるもののなかなか実践に結びつけられない人も。目的も関心もちがう人が集まって、一体どのように研修が進んでいくのか。参加型ファシリテーターをめざして ERIC の門をたたいた私にとって、そのこと自体が興味深くもありました。

■二転三転するプログラムー参加者のニーズをひろいあげるファシリテーター

プログラムはもちろん事前に決まっています。おおまかに言うと

- ・ 一日目が多様な参加者と過去、未来のビジョンを共有し、国際交流・協力の課題について現状を分析します。
- ・ 二日目は地域の中で国際化に向けてどんな課題があるのかを知るために、調査と課題分析の手法を学び、実際に町へ調査にでます。そして3日目は前日までの成果をもとに課題解決のためのプロセスをデザインします。
- ・ プログラムは3日間・9セッションを通じて参加型ワークショップ形式で進行します。

ERIC 国際理解教育センター

〒114-0013 東京都北区東田端 1-14-1 岩瀬ビル

プログラム提供部 03-3800-9415 テキスト普及部・一般 03-3800-9416

FAX03-3800-9414

Eメール eric-net@try-net.or.jp

ホームページ <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

「ERIC 通信」 年2回発行 発行責任者 角田 尚子

<主催研修報告>

「M.E.E.T. ザ ワールド」

2001年度第5回主催研修「M.E.E.T. ザ ワールド」を、1月14日・15日・16日の3日間、参加者8名を迎えてERIC事務所で行ないました。当日のプログラムは以下のとおりです。

1月14日	1月15日	1月16日
【セッション1】 国際交流・協力活動とわたしたち <input type="checkbox"/> 国際交流・協力のイメージ <input type="checkbox"/> 全体像をとらえる <input type="checkbox"/> 過去の共有	【セッション4】 手法の体験 <input type="checkbox"/> 手法の体験 <input type="checkbox"/> 調査手法の種類と特徴 <input type="checkbox"/> よい／悪いインタビュー <input type="checkbox"/> サボタージュ対策	【セッション6】 調査のまとめ・発表
【セッション2】 グローバルな課題と国際交流・協力 <input type="checkbox"/> クロマグロの悲劇 <input type="checkbox"/> マグロからツナ缶まで	【セッション4】 調査プランづくり	【セッション7】 課題解決のためのプロセスづくり
【セッション3】 国際交流・協力の課題分析 <input type="checkbox"/> 課題の整理 <input type="checkbox"/> 課題の分析－PRA(主体的参加地域評価法)の手法を使って	【セッション5】 調査に出かけよう	【セッション8】 まとめ、三日間のふりかえり

「TEST (Teachers' Effective Skills Training) 教育力向上講座」

2001年度第6回主催研修「TEST (Teachers' Effective Skills Training) 教育力向上講座」を、3月22日・23日・24日の3日間、参加者6名を迎えてERIC事務所で行ないました。当日のプログラムは以下のとおりです。

3月23日	3月24日	3月25日
【セッション1】 セルフエスティーム:SE(自尊感情)を育てる活動の場 <input type="checkbox"/> お似合いのイニシャル <input type="checkbox"/> 自分たちのしているSE活動 <input type="checkbox"/> シルエット <input type="checkbox"/> 重層的自己分析(年表版) <input type="checkbox"/> 子どもたちの変化を考える	【セッション4】 子どもの権利と大人の責任 <input type="checkbox"/> 4つのコーナー <input type="checkbox"/> 大人っていつから? <input type="checkbox"/> 子どもの権利を保障する責任は誰に? <input type="checkbox"/> 大人の責任を果たすためのバリア	【セッション7】 「万引きゼロポリシー」を考えるカリキュラムづくり <input type="checkbox"/> プログラム、カリキュラムとは <input type="checkbox"/> プログラムづくり
【セッション2】 弾力性のあるSEを育てるアクティビティ <input type="checkbox"/> IALAC(わたしは愛され、そして能力のある存在です) <input type="checkbox"/> IALACの展開を考える	【セッション5】 学校と地域の連携 <input type="checkbox"/> 学校と地域の役割 <input type="checkbox"/> 連携のための阻害要因 <input type="checkbox"/> 解決するためのステップを考える <input type="checkbox"/> 子どもの権利・大人の責任推進10か条づくり	【セッション8】 子どもの権利を保障する教員集団づくり <input type="checkbox"/> 推進の枠組みから課題のしぼり込み <input type="checkbox"/> コミュニティ変化のために共有すべき項目
【セッション3】 SEを育てる学級風土づくり <input type="checkbox"/> ミラー <input type="checkbox"/> 人生のタイムライン <input type="checkbox"/> SEをのばすプログラム・カリキュラムづくり	【セッション6】 学校コミュニティの課題 <input type="checkbox"/> マッサージはメッセージ <input type="checkbox"/> 地域の課題としての万引き万引きロールプレイ <input type="checkbox"/> 「万引きゼロポリシー」連想図	【セッション9】 行動計画 <input type="checkbox"/> 教員集団を育てる行動計画づくり <input type="checkbox"/> 評価のハナマル <input type="checkbox"/> 3日間のふりかえり

<ERIC からのお知らせ>

■ 『いっしょに考えて 一人権教育ファシリテーターハンドブック発展編』（2002年秋刊行予定）

角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著

ご好評をいただいている「人権ファシリテーターハンドブック基本編」をさらに発展させ、著者が社会的に不利益や差別をうけやすい、あるいは受けている人たち、差別者でありまた非差別者でもある「わたしたち」すべての力となることを願って創っています。（同封の「ERIC のテキスト・教材」もあわせてご覧下さい。）

■ 平和へのメッセージビデオ完成！ ～みんなで取り組むアドボカシー～

都立竹台高校の2年生では「国際理解教育」カリキュラムで、9月11日の米国攻撃事件をきっかけに約半年間現実に行っている課題を考えることに取り組みました。3学期は、学んだことを行動につなげるひとつの手段として、平和へのメッセージビデオを作成しました。

ERIC では、他のテレビ局や「戦争・平和に関するビデオ募集」など放映されるように働きかけています。

また、このビデオに関して15名の国際協力関係者に見てもらいアンケート調査も実施しました。

当センターでは、資料室でこのビデオを観ることができます。ご来訪いただいた際にこのビデオをご覧いただき、広く皆様のご意見・ご感想などいただければ、生徒・学校にもフィードバックしたいと考えています。

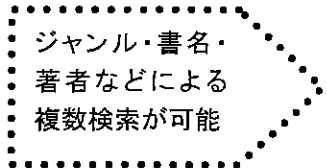
☆4月発行のレッスンバンクでカリキュラム・授業の内容の詳細を取り上げていますのでご利用ください。

注文番号 10-14 高校生と実践する「国際理解」～みんなで取り組むアドボカシー～ A4版 9ページ ¥450

■ カリキュラム開発室を一般公開しています。

ERIC では資料室にある蔵書などのほか、当センターのファシリテーターや研究員が使用しているリソースを一般の閲覧に提供しています。国際理解教育・環境教育・人権教育などの様々な分野にわたっています。総合学習を進める「カリキュラム開発室」として、整備中です。主体的な研究の場にお役立てください。

- ・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなどから集めた英文資料
約1000点（開発、異文化理解、環境、人権、平和、未来などのジャンル）
- ・日本語文献約2000点（）
- ・参加型教材関連の図書や教材
- ・ERIC の出版物
- ・国内外団体の出版物・ニュースレター多数



●閲覧日：月、火、木、金 13時～18時（要予約） 料金 :500円（ERIC 資料のみ閲覧の場合は無料）

■ メールマガジン「ERIC NEWS」を配信しています。

現在不定期ですが（2001年度は約20回配信）メールマガジンを発行しています。電子メールで活動内容などの詳細を、リアルタイムでお届けしています。ご希望の方は、ホームページより「ERIC 電子メールマガジン登録フォーム」をご利用ください。また、E-mail アドレスをお知らせいただければ登録いたします。

（なお、個人情報は厳重に管理されメールマガジン送信以外の目的では使用されません。）

■ ERIC スタッフ募集

事務局では、スタッフ、インターン、アルバイト、ボランティア、ファシリテーターなど、さまざまな形でお手伝いいただける方を募集しています。ERIC の運営に関わりながらいっしょに未来の教育を開いていきませんか。

ERIC 通信が年2回の発行になります。

これまでご購入いただいていた「ERIC 通信」は、ホームページのリニューアルやメールマガジンによる情報提供など、インターネット媒体へシフトアップをはかり、書面による発行を年2回（4月・9月）にさせていただきます。よりいっそう、ERIC とみなさんの情報共有・双方向通信によるコミュニケーションの充実をはかっています。よりいっそう、ERIC とみなさんの情報共有・双方向通信によるコミュニケーションの充実をはかっています。よりいっそう、ERIC とみなさんの情報共有・双方向通信によるコミュニケーションの充実をはかっています。よりいっそう、ERIC とみなさんの情報共有・双方向通信によるコミュニケーションの充実をはかっています。

おおまかな流れはさておき、各セッションはなかなか予定どおりには進みません。しかし、それは背景のちがう参加者が集えばむしろ当然のことです。そして参加者の疑問やニーズに柔軟に対応してこそ、ファシリテーターにも新しい発見があります。例えば、ファシリテーターがこれまで何度も行なってきたアクティビティが新たに展開したり、思いもよらないアクティビティを生みだすきっかけになったり。そういう場面を見て、参加者一人一人がワークショップを活性化させる主体であり、ファシリテーターも「知識の注入者」ではなく参加者の一人であるという「参加型の醍醐味」をひしひし感じました。「参加型」とは、まさにみんなで作り上げるものなのですね。

■今いる場所が「現場」

3日目は、いよいよ参加者自身がファシリテーターとしてインタビュー・調査をする番です。出発前、調査の達成度をはかる基準として、「インタビューを受けた人に満足感を与えることができたかどうか」という項目があげられました。調査による受益者は調査者だけではなく、相手にも有益な情報や気づきのきっかけを与えられるかどうかということです。自分をふりかえてみると、いくつか残念なことがあります。一つは時間に追われて相手への配慮がたりなかったこと。もう一つはインタビューの形式にとられすぎて、相手に十分話してもらえなかったこと。

しかし、中には「質問されたり答えたりすることで、インタビューを受けた側にも気づきや考えるきっかけを与えることができた」というふりかえりもありました。「国際協力や援助は遠い出来事」「自分には無関係」「何をしていいかわからない」と感じている人に情報や分析の手段を渡し、課題解決に向けて一歩ふみだせるようエンパワーすること。それが地域の中で国際交流・協力を進化/深化させるということなのだと思われた瞬間でした。

3日間の研修は、参加者にとって厳密には「自分の現場」ではないかもしれませんが、いま目の前にある課題や場所を「現場」と考えていく姿勢がファシリテーターには必要なのではないかと、それがこの研修の中で私には一番印象に残ったことです。

国際交流・協力。地球の現状と未来にとってさしせまった課題であり、意義のある行為です。しかし、自分の目の前にある課題に敏感になれずに、他者の課題を共有していけるでしょうか。「いま目の前にあるここが現場」。だからこそ国際交流・協力は「海外の遠い出来事」ではなく「地域から」はじめていけるのでしょう。

追記：参加されたみなさまも、感想や「こんな実践を試してみたいよ」ということがあれば、ぜひお聞かせください。感想・意見を共有し交換しあい、さらなる国際交流・協力の進化/深化をめざしましょう！

E-mail eric-net@try-net.or.jp

FAX 03-3800-9414

プログラム提供部 足立まで